



晴天の心

立教 185 年 7 月号

大阪府 富田 林市 寿町 4-9-10

URL:www.tomiishi.net

TEL:0721-23-3466 090-5243-4669



今年の関西はどうも空梅雨ぽいですね。

6 月半ばから梅雨入りしたにもかかわらずあまり降っていないように思います。

気温も高く 30 度超えが続いています。

熱中症で倒れないように適度に換気と空調、水分補給を忘れないようにしないといけませんね。

世の中は、火水風のバランスがとれたご守護をいただいて快適に生きていくことが出来るのです。わずかな気温の変化や雨が降らないだけで作物は枯れてしまいます。

暑い日でも、少しの風が吹くだけで空気が入れ替わり安ら

ぐことがあります。身の内も体温が高いとつらいですし、水が飲めないと身体を冷やすことも出来ません。呼吸が苦しいと声を出すことすら出来なくなります。

この火水風の 3 つのご守護は、目には見えにくいけどわかりやすく神様の働きを示してくださっていると思います。


基本に立ち返り、改めて毎日ご守護されているこの世の中や使わせていただいている身体に感謝をしないとイケませんね。

月次祭 7月19日 (火) 午前10時～
婦人会例会 7月 9日 (土) 午前10時～

今日の
おやのことば

「皆手を繋ぎ」

皆手を繋ぎ、これでこそと、
早く繋ぐの理を運ぶよう。



おさしづ 明治21年10月12日

子供たちが中学生と高校生になって、少し寂しく感じることは、彼らと手をつないで外出する機会がなくなったことです。

幼いころは、外出時にはいつも手をつないでいました。特に、多くの人が集まる場所へ行ったときや、横断歩道を渡るときなどは、お互いの手にいつも以上に力が入ります。温かく柔らかい小さな手を引いて、一緒に歩いているうちに、親としての自覚がだんだんと育ってきたような気がします。

「皆手を繋ぎ、これでこそと、早く繋ぐの理を運ぶよう」
手をつなぐことは、人と人とのつながりを最も強く感じる行為の一つです。大切な約束を交わしたときや契約が成立したときには、たいてい握手をします。遠く離れた場所へ旅立つ友人を見送るときは、いつもより固く手を握り合うでしょう。

サッカーのワールドカップで日本チームが得点すれば、思わず隣に座っている人と手を取り合って喜びます。相手の心の中を知ることとはできなくても、人は手をつなぐことで、互いに共感し合うことができるのです。

つないだ手から伝わる温もりは、人間が一人ではなく、多くの人と支え合って生きていることを教えてくれます。

新婚のころは、妻と手をつないで外出することもありました。さて、久しぶりに声をかけてみましょうか。(岡)

一二三 人がめどか

教祖は、入信後間もない梅谷四郎兵衛に、

「やさしい心になりなされや。人を救いなされや。癖、性分を取りなされや。」

と、お諭し下された。生来、四郎兵衛は気の短い方であった。

明治十六年、折から普請中の御休息所の壁塗りひのきしんをさせて頂いていたが、「大阪の食い詰め左官が、大和三界まで仕事に来て。」との陰口を聞いて、激しい憤りから、深夜、ひそかに荷物を取りまとめて、大阪へもどろうとした。

足音をしのばせて、中南の門屋を出ようとした時、教祖の咳払いが聞こえた。「あ、教祖が。」と思ったとたんに足は止まり、腹立ちも消え去ってしまった。

翌朝、お屋敷の人々と共に、御飯を頂戴しているところへ、教祖がお出ましになり、

「四郎兵衛さん、人がめどか、神がめどか。神さんめどやで。」

と、仰せ下された。

※ めど・・目標（めど）と表記します。



一三九 フラフを立てて

明治十七年一月二十一日（陰暦 前年十二月二十四日）、諸井国三郎は、第三回 目のおぢば帰りを志し、同行十名と共に出発し、二十二日に豊橋へ着いた。船の出るのが夕方であったので、町中を歩いていると、一軒の提灯屋が目についた。そこで、思い付いて、大幅の天竺木綿を四尺程買い求め、提灯屋に頼んで旗を作らせた。

その旗は、白地の中央に日の丸を描き、その中に、天輪王講社、と大きく墨書し、その左下に小さく遠江真明組と書いたものであった。一行は、この旗を先頭に立てて、伊勢湾を渡り、泊まりを重ねて、二十六日、丹波市の扇屋庄兵衛方に一泊した。

翌二十七日朝、六台の人力車を連らね、その先頭の一人乗りにはこの旗を立てて諸井が、つづく五台は、いずれも二人乗りで二人ずつ乗っていた。

お屋敷の表門通りへ来ると、一人の巡查が、見張りに立っていて、いろいろと訊問したが、返答が明瞭であったため、住所姓名を控えられただけですんだ。

お屋敷へ到着してみると、教祖が、数日前から、

「ああ、だるいだるい。遠方から子供が来るで。ああ、見える、見える。フラフを立てて来るで。」

と、仰せになっていたので、お側の人々は、何んの事かと思っていたが、この旗を見るに及んで、成る程、教祖には、ごらんになる前から、この旗が見えていたのであるなあ、と感じ入った、という。



註 フラフは、元来オランダ語で、v l a g と書く。旗の意。

明治十二年、堺県令に対して呈出した「蒸気浴フラフ御願」の中にも「私宅地ニ於テ蒸気浴目印フラフ上度候間」という一文がある。これを見ても、フラフが、旗を意味する帰化日本語として、コレラ、ガラス、ドンタクなどと共に、当時、広く使用されていたことを知る。

こどもおぢばがえりは、開催されませんが夏休み期間中は昨年同様おぢばでこどもひのきしんが行われます。ウォークラリー形式でひのきしんをしながら参加できます。また、今年は鼓笛オンパレードも開催されます。どうぞ、なつのおぢばへフラッグを立てて帰参しましょう。